

フ大学を卒業した後、プリモーリエに移り、それ以来この地域の鳥類の研究にたずさってきた。

当初はラゾ自然保護区、「ケドロヴァヤ・パジ」自然保護区で鳥相の研究を行い、大学院時代には海洋生物研究所脊椎動物研究室に所属し、その後生物学・土壌学研究所鳥類研究室の研究員となった。研究テーマは海鳥類の生態であるが、とくに太平洋西部のコロニー性海鳥類の生態やピョートル大帝湾の海鳥類の動態と生態について長年研究し、なかでもとくにウミネコの生物学については詳しい研究を行っており、ロシア沿海地方における分布、繁殖生態、食性、繁殖に関わる行動など多くの論文を執筆し、その集大成として1980年に「ウミネコ」(ナウカ社、モスクワ)を出した。第二の研究分野は沿岸地域や湿原の鳥類多様性の保全に関する研究で、サハリンのモネロン島の保全のための基礎研究を行ったり、北朝鮮との国境を流れるツマンガン川(豆満江)下流部などの鳥類の生息地としての重要性を明らかにする研究をしている。同じ研究所のシバエフ博士は、リトヴィネンコ博士のご主人であるとともに、共同研究者であり、これらの研究の多くを二人共同で行ってきた。ソ連からロシアになってからの研究活動は、経済的状況の悪化により困難をきわめたが、その中であつても研究活動を継続していた。また、研究活動の一環として研究所が発行する論文集の編集に当たり、最新のもののは論文集「ロシアにおけるコウノトリ」である。さらに国際協力にも力を入れ国際的な論文集の編集者もつとめた。

長年シバエフ博士と共同で研究にあたり、専門家として保全対策のプロジェクトに積極的に参加し、活躍してきた。例えば、極東海上自然保護区、「モネロン島」国立公園、「ハサン」国立公園の設立に尽力した。また、ロシア極東南部にある他の研究所や大学の鳥類研究者と共同で「Amur-Ussurian birds diversity center」(運営の中心はS. スルマチ氏)を設立し、研究活動の経済的基盤の確保、鳥類研究の支援、鳥類学の業績の出版などの活動にも加わっていた。

最後に、シバエフ博士のメールにあった一節をあげておく。

She was my colleague, my the only friend and my love.

藤巻裕蔵

リトヴィネンコ博士のこと

先日、ウラジオストクにある生物学・土壌学研究所のシバエフ博士から、リトヴィネンコ博士が2001年1月30日に亡くなったとの連絡をいただいた。

ナターリヤ・リトヴィネンコ Nataliya Mikhailovna Litvinenko 博士は、1935年1月5日ウクライナのアゾフ海南岸にある町、ケルチで生まれた。ハリコ